

平成 23（2011）年度 事業計画

平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで

(平成 23 年 3 月 24 日 評議員会同意、同日理事会議決)

平成23(2011)年度 事業計画

2011年度事業目標

2010年、生物多様性条約COP10で新たな生物多様性保全の目標「愛知ターゲット」が決議され、またCOP10での市民からの提案により、国連総会で2011～2020年の10年間を、生物多様性保全に国際社会が連携して取り組む「国連生物多様性の10年」と定めた。これを踏まえ、NACS-Jでは今年度より「生物多様性の10年事業」として、この10年で各地の現場で地域の暮らしに根づいた生物多様性の保全を実現することを目標とする「生物多様性の道プロジェクト」(プロジェクトの愛称)に取り組む。

「生物多様性の道プロジェクト」は、目標達成のために、次の3つの方針を立てた。
 すべての事業をこの方針に基づいて計画、実施するとともに、毎年度、社会状況を踏まえ重点事業を設定する。
 <事業実施方針>

- ① 地域が主体となった地域づくりの一環としての生物多様性保全となるよう、自治体(市町村)への普及啓発を行ない、地域住民が参加できる保全活動の実践、提案を行なう
- ② 生物多様性保全は「環境」分野の取り組みという偏った概念を払拭し、健全で持続可能な農林漁業を支えるものであること、保全型の土地利用や土木は持続可能な地域経済と新たな産業を作るものであること、を事例と実践で示す
- ③ 全ての事業において、できる限り①②の主旨を具体的に示した事業の説明を行ない、紙媒体やWebで発信し、パブリックアウェアネスを高める

2011年度は、「愛知ターゲット」の実現に向けその策定が急がれる「生物多様性地域戦略」づくりの活動を行なう。戦略の内容がより保全が促進されるものとなるよう、書き込むべき重点事項を具体的に提案するほか、地域の人たちの保全への思いや意見が十分に反映された地域の人々の戦略となるよう、策定方法について、よりよい市民参加や、専門家の関与のしかたを提案する。また、戦略策定後の、具体的な取り組みの実施状況や、評価、点検のあり方についても実践研究を行なう。

重点事業

事業名	事業の目標	事業概要
生物多様性の道プロジェクト2011 「市民参加の地域戦略づくり」	「愛知ターゲット」の実現にむけ、生物多様性国家戦略と地域戦略を「実効性あるもの」にする 特に次の点について、具体的に提言し反映させる ・保護地域の効果的な配置 ・市民や多様な主体の参画プロセスの確保 ・横断的・継続的な取り組み ・戦略策定後の評価システム構築 ・生物多様性に関する法制度への対応	①国家戦略・地域戦略の課題分析と提言 ・検討会の設置・課題の整理・分析・次期国家戦略(2012年採択予定)、地域戦略策定に向けてNACS-Jの提言をまとめる ・特に保護地域については、SISPAでの保護地域の分析成果を提言に盛り込む
		②「地域戦略づくりセミナー・シンポジウム」 ・NACS-Jの提言が国家戦略・地域戦略へ反映されるようセミナー(地方)やシンポジウム(東京)を開催する
		③「地域戦略づくり市民ガイドライン」と個別地域への働きかけ ・地域戦略づくりの重要ポイントをまとめ、「市民版ガイドライン」を作成する ・NACS-J各種事業で関係する自治体の戦略計画・行動計画策定プロセスにできるかぎり参画する
		④広報 ・Webページ、冊子、パンフ等の作成 ・「地域での生物多様性保全の重要性、あり方」を広く普及する

保護交渉事業

事業名	事業の目標	事業概要
保護交渉事業	保護の具体化・前進の確実な獲得	①国の施策への有効な多様性保全施策の組み込み(土地利用施策の改良誘導) ②保護地域化困難地の保護地域化(新設、拡大) ③国立公園・自然環境保全地域・保護林の一元管理方策の進展 ④国有林への多様性保全型施策の組み込み(モデルプロジェクトの普遍化)

保護プロジェクト事業

2011年度の目標

- ①地域の自然保護問題を、科学的な根拠と全国的視野から解決する。
- ②辺野古・泡瀬で現場調査とキャンペーンを展開し、埋立計画を中止につなげる。
- ③沿岸域の自然保護問題を社会に発信する。
- ④赤谷プロジェクトで環境保安全管理のモデルをまとめ、「持続的な地域社会」にむけた具体的な取り組みをはじめめる。
- ⑤国立公園・小笠原や尾瀬のオーバーユース問題について、解決の道筋をつくる。

事業名		2011年度の目標	事業概要
1	海域の保全	埋立をこれ以上進ませない社会状況をつくる 全国の沿岸域の問題を集約・顕在化し、提言する	<p>①辺野古・大浦湾と泡瀬干潟の保護活動 問題解決につなげるため、地元グループと協働して調査の実施、成果の公表・共有(会見・ミニシンポ等) ・「辺野古の海」調査(海草・底生生物) ・大浦湾アオサゴ群集調査 ・泡瀬干潟海草藻場サンゴ調査 ・沖縄の海、現地ツアー「いきものバンザイ! ツアー」の準備・開催</p> <p>②日本の沿岸域の問題提起(新規・二カ年) ・沿岸域の環境問題の抽出と整理、地域団体との連携 ・「海域保全小委員会」設置 沿岸整備・里海・海域保護区などの保安全管理のあり方を議論</p>
2	現場の保護問題解決支援	地域NGOと連携し、問題解決の活動を進展させる	<ul style="list-style-type: none"> ・問題点を明確にするための地域NGOとの連携・現地視察 ・関係主体・メディアへの意見の発信 ・問題解決の活動をつくる 特に、重要地域の種の保存と場の管理をめぐる施策 ・山岳地域での適正な利用・管理や開発計画 ・風力発電・地熱発電の問題抽出、アセス手続きへの提言 ・沿岸域での開発問題
3	赤谷プロジェクト	赤谷型森林保安全管理モデルを発信する 地域主体による取り組みに着手する	<p>①生物多様性保全型管理の実践／総合事務局業務(自主・受託) ・科学的根拠にもとづく森林管理(モニタリング会議と各WG) ・協働による意思決定(企画運営会議／調整会議) ・ボランティアとの連携による環境管理(赤谷の日) ・市民参加型モニタリング体制の構築(植生モニタリング) ・ホームページ更新、講演・視察依頼への対応等 ・支援者の獲得、継続支援企業への協力</p> <p>②生物多様性型環境管理モデルの発信と情報交換 ・赤谷プロジェクトの第1期(2003-10)の成果まとめ、発信</p> <p>③地域主体の「野生動物管理」にむけたプラットフォームづくり ・みなかみ町をはじめとする地域の関係者を加えた「野生動物管理」の枠組み作り</p>
4	保護地域の問題解決	島嶼生態系の保護管理のしくみを社会に発信する	<p>①小笠原プロジェクト ・保安全管理施策への提言、問題提起 ・南島モニタリング調査業務 ・世界遺産にふさわしい「利用のあり方」の整理、普及・啓発</p>
		国立公園の登山道のあり方の提言と問題解決	<p>②尾瀬プロジェクト ・保護地域の保安全管理施策への提言、問題提起 ・至仏山登山道学術調査及びコーディネート業務 ・全国の登山道問題マップの作成・発表(共通課題としての認識づくり)</p>
5	ライブラリー管理	登録作業を維持し、情報活用場の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・一般図書・報告書・ニュースレター等を登録管理 ・閲覧サービス

保全研究事業

2011年度の目標

市民参加型調査手法のノウハウやデータ、ネットワーク、情報活用基盤であるSISPA、総合事業(綾プロ)、COP10で得られた情報などを有機的につないで、地域ごとの戦略行動計画実行への事業モデルづくりに着手する

事業名	2011年度の目標	事業概要
1 里やま 保全研究	<ul style="list-style-type: none"> 次期サイト再配置にむけて戦略・選定基準を決める 各サイトの調査継続を支援し、保全への活用を進める 	モニタリングサイト1000・里地調査 <ul style="list-style-type: none"> 調査継続のための連絡調整・講習会・支援ツールづくりの継続 データの収集と整理・解析 調査サイトとの連絡調整、現場での関係者間の情報共有の場づくり ウェブサイトや印刷物を通じた成果発信 指標レポートの作成を通じた、現状評価とサイト再配置の基準づくり
	<ul style="list-style-type: none"> 市民調査の国内、海外とのネットワークをつくり、保全活動の知恵を共有する 市民調査のデータが保全に生かされる事例を蓄積する 	市民調査の促進 <ul style="list-style-type: none"> ウェブサイトを活用した市民調査の知恵の普及<里やま・湿地保全> ラムサール・ネットワークの調査研究部会・水田部会への参画 ラムサール条約湿地検討・選定への積極的な提言 日韓両生類市民モニタリングワークショップの開催
2 SISPA (戦略的保全地域情報システム)	市民が身近な自然の変化に気がつく	生きもの情報館 <ul style="list-style-type: none"> 利用しやすいシステムへの変更 データの効果的な活用方法の検討 利用をうながすための広報活動 大隅や綾など地域でのグループ機能の利用を実施
	地域づくりを含めた生物多様性保全の手法を蓄積する	ふれあい調査 <ul style="list-style-type: none"> 綾プロジェクト(綾町)での「ふれあい調査」とマップづくり 『ふれあい調査ハンドブック』と綾の事例を活用した持続可能な地域づくりの普及
	<ul style="list-style-type: none"> 「生態系サービスからみた重要地域」選定の企画をつくる 既存データを利用して重要地域を選定する 国家戦略、地域戦略策定に提言する 	重要保全地域研究 <ol style="list-style-type: none"> 生物多様性の道・生態系サービスモニタリング <ul style="list-style-type: none"> 生物と生態系サービスから見た重要地域選定事業にむけた情報収集 データベース整備 <ul style="list-style-type: none"> 基礎データ(NACS-Jの過去データや保護地域・重要地域情報)の収集・整理 世界保護地域委員会(WCPA) <ul style="list-style-type: none"> WCPA日本委員会への参加 現場の保護へのフィードバック 提言 <ul style="list-style-type: none"> 国家戦略策定や地域戦略策定のための提言 愛知ターゲットに向けた提言
3 照葉樹林 保全研究	大隅照葉樹林の保全に多くの主体が取り組みを始める	大隅調査 <ul style="list-style-type: none"> 照葉樹林現状調査 市民参加型自然環境調査の実施 SISPAを使った情報共有の仕組み作り
	多くの主体が参加できる仕組みを構築する 照葉樹林保全に向けた取り組みを進める	綾プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> 調査研究ワーキングの運営 市民参加型林床植生調査の実施 照葉樹林サミットの開催 生態学からみたシリーズ書籍の発行準備 綾生物圏保存地域(エコパーク)指定への協力 綾生物多様性戦略策定への協力
4 愛知ターゲット 基盤整備	愛知ターゲット実現に向けた、地域NGOを含む多様な主体の参画を促す体制を整備する	IUCN-J事務局運営 <ul style="list-style-type: none"> 愛知ターゲット実現のための基礎資料作成 IUCN-Jキャンペーン「にじゅうまるプロジェクト」(IUCN-J名で経団連基金に申請中)の支援 IUCN日本委員会の日常業務(問い合わせ、会議運営等)
	COP11等の2012年に向けた国際情報をまとめ、NACS-Jの獲得目標を検討する	国際情報収集 <ul style="list-style-type: none"> IUCNのアジア地域フォーラム(9月、韓国)、SBSTTA(11月、開催地未定)への参加・情報収集と国内施策に活用するための分析 報告書の作成
6 研究共通	緊急案件にネットワークよく対応し、各事業の発展に成果をつなげる	<ul style="list-style-type: none"> 外部からの依頼ごと対応 想定していない重要な事業の情報収集 芽だし活動 緊急の現地視察、調査要請への対応

教育普及事業

2011年度の目標

- ①受講者のニーズに合わせた形態で講習会を開催し、実際に自然保護につながる活動を行う自然観察指導員を養成する。
- ②現場の自然保護に貢献していくノウハウを学べる新しい研修プログラムを実施し、自然を守る人材を増やす。
- ③学校教育の現場や親子で参加できる参加型プログラムを通して、子どもが自然にふれあう機会を増やし、自然保護や生物多様性への関心を高める。
- ④得られた助成成果を広く公表・広報して、助成成果が自然保護に活用される機会を増やす。

事業名	2011年度の目標	事業概要
1 自然観察指導員養成 ①講習会	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会の内容や開催形態をさらに改良する ・受講率90%を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・12回開催 ・新指導員を650名養成 ・講習会の目標・プログラム内容などを講師・スタッフ間で共有するため、講師会議を1回開催 ・受講者獲得のためのPR促進、指導員連絡会・自然系施設や団体などへの受講者募集案内の協力依頼 ・講習会のプログラム内容・開催形態などの改良、試行結果検討の継続
2 自然観察指導員養成 ②研修会	<ul style="list-style-type: none"> ・現場の自然保護活動の助けとなる研修会やセミナーを提供する ・会員・指導員に自然保護・生物多様性保全の意味とその実現の方策を伝える 	<p>(助成)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の保全計画を作るためのコーディネーターを養成する新規研修会(コンサベーションプランナー研修会)の実施 <p>(自主)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2010年度のセミナー報告書の作成、報告書の完成記念セミナーの開催 ・これまでの研修会のノウハウを活かした、指導員連絡会や自治体からの相談や依頼への対応、研修会等の企画・実施
3 自然観察指導員養成 ③フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員継続率90%を維持する ・NACS-Jとの連帯感を高めるサービス(グッズ)を提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ・再継続を呼び掛けるダイレクトメールの実施 ・登録証明書・ネームプレート・腕章・保険の対応 ・メールマガジン配信や指導員グッズの製作・販売 ・指導員の活動に役立つ情報の提供
4 教育普及小委員会(仮)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育普及事業の短期・中期計画を検討する ・指導員の育成方針(フォローアップを含む)を再確認する ・自然観察指導員連絡会との協力体制を再整理する 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育普及小委員会(仮)の設置(5回程度開催予定) ・講習会の開催形態、プログラム、共催先の選定・優先基準等の、講習会の運営面の改良案を検討 ・講習会受講後に必要なフォロー、アンケートなどの対応を検討 ・指導員連絡会との協力内容、連絡会やブロック会議等へのフォローの仕方を検討
5 自然しらべ	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な場所でチョウをしらべることを通して、生物多様性を感じる機会を提供する ・参加者を倍増させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が生物多様性を実感できるプログラムへの改良 ・関東近県で研修会を開催し、地域や学校の指導者・教職員に参加の呼びかけを実施 ・企業等の協賛社を増やし、活動への参加者を増やす ・全国一斉企画として、地域のNGOとの連携を強め、地域の自然保護活動への参加者を増やす
6 教育一般	<ul style="list-style-type: none"> ・賛助会員の継続率をあげ、新しい賛助会員を獲得する ・自然保護や生物多様性保全のために企業が果たすべき役割を伝える 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業からの観察会その他のプログラムへの要望への対応 ・企業の社員や社員の家族向けの観察会プログラムを賛助会員向けに定型化し、関係企業に呼びかける ・企業向けの観察会への指導員の参加を呼びかけ ・人的ネットワーク作り
7 P.N.ファンド	<ul style="list-style-type: none"> ・助成成果が広く公表され、共有と活用が図られている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・応募や広報でのインターネットの活用 ・報告書の作成および配布 ・成果発表会の開催 ・過去助成報告書のhtml化
8 教育普及・共通	<ul style="list-style-type: none"> ・NACS-Jの認知度を上げ、支援を獲得する 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部からの講師・委員の派遣・紹介、後援依頼・原稿執筆依頼対応 ・主催・外部催事等での各種パンフの配布やイベントの案内等 ・教育普及事業を企業等に紹介し、協賛を得る

広報・編集事業

2011年度の目標

- ①「次世代に生物多様性を伝える」キャンペーンを展開し、生物多様性を伝える人を募る。
- ②生物多様性の保全にNACS-Jが果たしている役割・活動を整理し、広報素材を作成する。
- ③自然保護活動に参加する人を増やすため、わかりやすく誘導できるようにwebサイトを改良する。

事業名	2011年度の目標	事業概要
1 広報事業	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者＝新入会員を500人増やす ・広報素材を改良する 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報委員会(仮)の設置、4回開催 ・公益移行後の新理事・事務局で、広報素材の表現方法を再検討、改訂した表現・イメージを公式資料に使用 ・広報素材の作成・管理と定期配布 ・企業等からの企画寄付窓口、募金箱の管理・拡大
2 (サポーター拡大プロジェクト) 次世代へ生物多様性を伝えようキャンペーン(仮称)	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性を伝える人を15000人つくる ・NACS-Jの知名度向上、協力者・寄付者を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の理解者を増やすための素材作り ・「次世代へ伝える宣言」(仮称)参加者募集 ・会報でコーナーを新設、web・イベントで連動企画の実施 ・会員のつどいの実施
3 会報発行	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察・生き物テーマを強化し、自然観察を通じた自然保護に役立つ情報を提供する 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員向け会報『自然保護』の発行(年6回) ・コーナーのリニューアル(7/8月号から) ・活動レポート号の発行(7/8月号)、寄付者への報告と配布用に増刷
4 Webサイト運営	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信型サイトを維持する 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もがNACS-Jの基本的な情報にアクセスできるwebサイトを維持・更新 ・アクセス解析をふまえ、構造・コンテンツの改良 ・閲覧者が少ない過去に作成したページの活用を利用者に提案
	<ul style="list-style-type: none"> ・新規認知者をページビュー30万件増やし100万件にする ・web閲覧から行動する人を1000人増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・30万pvに相当するページに、入会・寄付への誘導告知を掲載
	<ul style="list-style-type: none"> ・法人団体の寄付件数を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> ・寄付事例紹介のトップページをリニューアル ・一般の人が寄付をしやすい場をつくるため、企業による寄付企画の呼びかけ

事務局運営事業

2011年度の目標

- ①円滑的確な事務対応により、法人運営上の信用を維持する。
- ②公益法人移行後の諸対応を進める。
- ③安定した事務が行えるよう部内体制を見直す。

事業名	2011年度の目標	事業概要
1 事務局運営	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局運営上の課題への迅速な対応、解決をはかる ・事務局運営における早期・適切なリスクマネジメント体制の構築 	ワーキンググループの設置、事務局運営における課題の検討
2 法人移行の基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ・移行後の新法人における、会議開催方法、諸規程の整備をはかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸規程の整備 ・評議員、理事等への連絡調整 ・適切な会議の場の設営 ・参与の検討 ・財政・経営基盤の検討
3 会員DM	<ul style="list-style-type: none"> ・協力金を得て保護活動に役立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ・賛助会員企業からの要望に応じた会員向けDMの実施
4 資料・書類管理	<ul style="list-style-type: none"> ・重要資料の保存を進める ・個人情報保護・具体的な体制・ルールづくりを進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・NACS-J報告書および資料集のPDF化
	<ul style="list-style-type: none"> ・刊行物の販売体制を維持する 	<ul style="list-style-type: none"> <刊行物頒布> ・狼森との販売契約の継続 ・販売書籍の仕入、在庫管理
5 日本自然保護協会沼田眞賞 (牧田基金事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き顕彰制度を適切に運営し、会と賞の認知度を高めるとともに、授賞式を有意義な会員交流の場とすることをめざす 	<ul style="list-style-type: none"> ・会員へのPR強化、特別枠の設定 ・別事業を組み合わせ、広報効果を図る